

離職者訓練（アビリティ訓練）

1. はじめに

先導的で高度な在職者訓練を実施する施設として位置付けられている高度ポリテクセンターにおいては、先導的かつ高度な離職者訓練のモデルとして1コース実施し、その普及に貢献してきたところです。

しかし、平成13年の緊急雇用対策を受け、その対策対応の離職者訓練コースを増設することとなりました。ここでは、その実施概要について報告します。

2. 離職者訓練開始の背景

新科検討に当たっての主な背景を以下にまとめます。

- ① 求人状況としては、新規求人はあるが特定業種に集中している状況ではない。したがって、求職者に対しては就職可能性の範囲を広く与える職業訓練システムの提供が必要である。訓練実施側もそれを支援できるコースカリキュラムが必要である。
- ② 求職者の保有する技術・技能ならびに希望職務とのミスマッチに対して、多くの理由があるにせよ就職するという現実解を求めることが急務である。求職者自身の保有技術と希望の「多様化」は事実であり、訓練においても多様性に対応したカリキュラムが求められる。
- ③ 一方、平成7年度から実施している「先導的な離職者訓練（ハイテクコース6ヵ月）情報通信技術科」の場合、すでに関連する複数の要素技術を

有した求職者が入所するケースが少ない。

ある程度の多様性を持つ訓練をより効率的に提供し、より多くの方に訓練機会を与えるための改善が必要と判断しました。

3. ねらい

上記背景から、平成13年度まで実施していたハイテクコース情報通信技術科を発展的に解消し、新たな状況に対応した先導的アビリティコースの開設に取り組みました。そのねらいは下記のとおりです。

- ① 職業能力の幅を広げる、または、技術力のアップに必要な多様な技術要素を可能な限り提供し、訓練生の就職可能性を向上させる。
- ② 訓練生は、自ら目標を設定し、かつ、訓練コースが適当と判断したうえで入所する。これにより、訓練に対する動機づけを明確にする。
- ③ 訓練コースは、必須科目と選択科目で構成する。選択科目は、自らの目標に沿った内容と進捗によって選択する。選択科目を自己管理のもとで技術習得することで、訓練に対する動機づけを向上させる。
- ④ 訓練コースの仕上がり像は、核となる基本職種とするが、選択科目および他の訓練コースの選択科目履修により、一専多能化に対応する。
- ⑤ 訓練生とのカウンセリングを含めた高度ポリテクセンター訓練プログラムとの協調作業を通じて、新たな技術の習得、新たな職場に挑戦する「訓練生の元気」を応援する。

4. 新訓練システムの概要

(1) 訓練システムの構成要素

構成要素としては、専門基礎科目、必須科目、専門選択科目、共通選択科目、応用課題からなります。

① 専門基礎科目（1ヵ月）

各コースの仕上がり像の核となる職務を遂行するうえで、必須となる内容を1ヵ月通して習得する。

② 必須科目（3日、5回）

各コースの仕上がり像の核となる職務を遂行するうえで、必須となる内容を選択と交互に習得する。

③ 専門選択科目（3日、5回）

各コースに関連した技術要素を選択科目として設定する。同一時間帯に複数の専門選択科目が設定できる。

④ 共通選択科目（3日、5回）

専門基礎科目の内容を簡略化し、3日5回分に分解したもので、他の訓練コースの訓練生の受講機会を増やすために設定する。

⑤ 応用課題

各コースの総合実習として設置する。

(2) 設置訓練科

- ・メカニカルエンジニア科
- ・建築情報オペレーション科
- ・ファームウェアプログラミング科
- ・情報通信システム科

(3) 訓練期間と入所回数

訓練期間は3ヵ月とし、年4回の入所。なお、平成14年10月よりメカニカルエンジニア科では6ヵ月訓練を行っています。

(4) 実施状況分析

訓練終了時に行っている訓練生へのアンケート結果をもとに、新アビリティコース開設意図の妥当性分析を試みました。

選択科目をどのように決めたかという問いに対しては、「自分の既存技術・技能のさらなる向上」が55%、「就職に有利なため」が19%、「興味があった」が24%でした。各自が有している技能・技術のレベルアップできるものを中心に選択が行われることが

わかります。選択制の有効性についての問いに対しては、「有効」が33%、「やや有効」が36%、「どちらともいえない」が23%、「なくてもよい」が7%、「ないほうがよい」が1%でした。訓練生の約70%が有効性を認めていました。

また、メカニカルエンジニア科で独自に実施した訓練科目ごとの満足度調査では、選択科目は、必須科目に比べて圧倒的に「満足」の比率が高く、「不満」回答は皆無でした。

さらに、次の4つの評価項目、全訓練科目への評価、選択科目への評価、就職サポートへの評価、学習環境への評価と、訓練コース全体の総合評価との相関をクロス集計により確認した結果、選択科目への評価がコースの総合評価に最も強く作用していることが明らかになりました。新訓練プログラムは、訓練生のチャレンジ意欲の誘発と受講訓練への満足度向上、総合的な満足向上という面で効果的に作用しているものと考えています。

(5) 今後の課題

当センターのアビリティ訓練は、全所的に取り組み始めてから日が浅く、現在就職支援体制を見直しているところです。訓練内容と就職サポート等の訓練支援体制は車の両輪といえ、どちらも重要です。今後引き続き両者の改善を図り、訓練生と当センターとの協調作業が、受講満足度を満たし、なおかつ、就職に結実するよう取り組む所存です。

5. むすび

今回は誌面の都合で訓練の内容（システム編成シート等）については省略しました。詳細については「ITに係わる先導的・体系的な教育訓練コース開発研究会」にてまとめられた報告書（平成14年3月）内の離職者訓練コースの項で報告していますので、ご参照ください。